

箱の処分犬然同ミゴミ

20年間、市内28カ所に

愛護団体反発で廃止へ

豊 橋

愛知県豊橋市は二十年前から市内の二十八カ所に鉄のオリ箱を置き、飼えなくなった愛犬や野犬を市民に自由に入れさせ、保健所に処分してもらっていたが、

四日までにこの処分方法を廃止する方針を固めた。ゴミと同じような扱いに「動物の虐待につながる」という動物愛護団体の廃止要望に応じたもので、早ければ

来月から取りやめる考え。

市の説明によると、この箱が設置されたのは一九七二年の夏ごろ。野犬が田畑の農作物を荒らしたり、住民に危害を加えるケースが増えたほか、飼えなくなった愛犬の処分に困る人が目立ったためだった。

市が鉄のオリ箱（横一〇五センチ、高さ六五センチ、奥行き五五センチ）を作り、市内の各農協の本所や支所の屋外計二十八カ所に一個ずつ設置。犬の回収日を一週おきに定め、それぞれ住民が自由にオリを開けて犬を入れられるようにした。入れられた犬は、その日のうちに保健所に引き取ってもらっている。これまでには多い年で約千三百匹、少ない年でも八百匹ぐらいが入れたという。

このような実情を知った

全国組織の民間動物愛護団体「動物たちの会」（本部・東京、R・ヘロルド代表）が先月中旬、同市に「動物のゴミ箱みたいで、動物の虐待につながる、好ましくないで廃止を求めた。担当の同市衛生課が中心になって検討した結果、保健所に対応施設が整ったほか野犬の減少などで設置当初のような必要性が少なくなり、動物保護の意識が強まって新しい時代の流れを無視できないことなどから廃止する方針を固めたという。

大塚浩蔵・市衛生課長は「住民の要望に応えるため、これまで続けてきた」と話している。

これに対し、同会事務局の杉本等さんは「犬の管理は飼い主などがきちんと管理すればできる」と歓迎している。



不用犬や野犬の回収のために豊橋市が市内に設置していたオリ